

ちけん 治験啓発キャンペーン

7月5日、6日、当院外来ホールにて「治験啓発キャンペーン」を実施しました。

これは、地域の皆様に治験や臨床研究についての理解を深めていただき、より迅速で質の高い治験の実施を支援していくことを目的とし、三重大学医学部附属病院臨床研究センターとNPOみえ治験医療ネット、三重県(Mie Medical Valley Project)との協催で行われました。

キャンペーンではパネルやパンフレットを使って「治験(ちけん)」について分かりやすく説明をし、アンケートでは治験に対するイメージやご意見を聞かせていただきました。アンケートには2日間で約80名の方にご協力頂きました。(ありがとうございます!!)

ここではキャンペーンに参加できなかった皆様や「治験」についてまだご存じない方のために当日の内容を簡単にご紹介します。



★治験(ちけん)ってなんだろう?

▶ **新しいくすりのききめや副作用を確かめるための試験です。**
「くすりのもと」が発見され「くすり」になるまでにはいくつもの段階を踏まなくてはなりません。その過程で実際に病気の方に協力していただく必要があります。私たちがいつも使っているくすりも治験をしてできあがりしました。たくさんの人の協力がなくてはくすりはできないのです。

★治験に参加することでいいことや心配なことってあるの?

▶ **いいことも心配なこともあります。**

- 新しいくすりを使うことで病気を治すことが出来るかもしれません。
- 治験によっては検査代や診療費がいつもより少なくなる場合があります。
- 病気や検査の結果について詳しい説明をうけられます。

SS114

心配なこと

- 診察や検査の回数が増えることがあります。
- くすりの飲み方や生活の仕方など、気をつけて守らなければいけないことがあります。
- まれに、これまで知られなかったような副作用が出る可能性があります。

治験は専門の医師が担当し、治験コーディネーターは担当医師や治験に参加する人をサポートします。不安なことや疑問に思うことなど、なんでも聞いてください!

「治験」は新しいくすりを開発するのに欠かせない試験です。当院ではワクチンや小児喘息、アレルギーに関する治験や臨床研究に積極的に取り組んでおります。

募集中の治験については外来ホールや診察室付近にポスターを掲示してあります。

興味のある方はぜひ、主治医もしくは当院治験管理室までお問い合わせ下さい。(薬剤科 山本由紀)

参考資料:「治験ってなんだろう?!」
社団法人 日本医師会 治験促進センター

医療福祉相談室だより



医療福祉相談室には小さな図書コーナーがあります。

子どもの病気(難病・発達障害・こころの病気)に関するものから、介護する側・される側、子育てのヒントになる本、話題の本などおいています。ソーシャルワーカーが面接中の時はお部屋に入れませんが、それ以外はいつでもかまいませんので外来・入院を問わずふらりのぞいてください。

今月のイチオシ



「いのちはどこからきたの? 9歳までに伝える『誕生』のしくみ」

《大葉ナナコ 作/情報センター出版局》

皆さんは、子どもさんと性の話をどんなふうにしますか?「心が生き生きとすると書いて『性』。性は、かくすことでも、いやらしいことでもないのです(本書より)」。児童への性犯罪・中絶・性感染症からわが子たちを守るだけでなく、自分を大切に出来る子どもを育てるために、5人の子育てをしながらバースコーディネーターとして働く作者の「性を伝える方法」は、まさに「ギフト」です。また本文からあふれる母性に、自分もこうやって子育てをしたいな、いやいや、育てられたいなと心がじんときずみます。

子どもに赤ちゃんってどうやって生まれるの?と聞かれたとき、性の話なんかしなくても大丈夫と思っている方、どうやって話をしたらいいのかな…と迷ってる方にはぜひおすすめですよ。(ソーシャルワーカー 高村 純子)